

水や澱粉のりに、絵の具を溶かす準備を一緒にやると、子ども達は「わくわくする」と目を輝かせます。そのまま絵の具を画用紙や筆と一緒に置き、指示や正解なく見守りました。

1歳の子は、紙に筆で描き、その軌跡をじっと見つめています。ひたすら没頭し、色や起きる事と、ゆっくりと出会っていきます。2歳の子は画用紙に描き、色を混ぜていきます。「オレンジになった!」「色が変わった」とうれしそうです。器から流し、混ぜ、移し替え、手を絵の具に浸しています。机のビニール、自分のズボン、手や足に塗ってみます。ティッシュに染みていく色を見つめ、をれを絞り、丸めて遊びます。澱粉のりを手に付け、何かを感じています。

いつのまにか、それぞれが興味ある事に没頭してしまいました。その表情は真剣で、きりっとしています。「これやってみる?」という、大人の投げかけに見向きもしません。すごい集中力で、自分の世界で遊び込んでいました。そんな姿を見守るのは、大人もワクワクしてきます。その姿は私達に、いろいろな事を教えてくれました。

- 大人の声掛けを控える事で、自分の世界に集中していける。
- 自分で小さな発見をしている。子ども発信の声を待つのが大事。
- 目の前に集中できることがあると、やってはいけない事はしない。
- 1人ひとり興味のあることは違う。感じ方が違う。

大人の既成概念を外して見守ると、個々の感性が見えてきます。紙の交換、色の選択なども「いいかな?」と確認していくと意思を持って決めているのがわかります。画面の痕跡には、その子が心を動かした軌跡が表現されています。

自分なりの感じ方で遊ぶ時間は、感性を育てます。それは自分なりの答えを見つけていく、大事なアンテナです。

